

1 単元名 感想を伝え合おう

教材名：「ごんぎつね」(東京書籍4年 下)

2 単元の目標

○新美南吉の作品に興味を持ち、自分なりに読み取ったことを進んで発表し、読み深め合おうとする。

(国語への関心・意欲・態度)

○登場人物の心情の変化や場面の様子を叙述をもとに想像しながら読み取ることができる。(読むこと)

○語句の意味を考えたり、語や文を関係づけたりしながら読むことができる。

(言語についての知識・理解・技能)

3 本単元に関わる情報リテラシー

J-3 情報カードに書く

M-4 役割を考えて話し合う

4 単元について

○教材観

本単元は、学習指導要領の第3学年及び第4学年の「C 読むこと」の指導事項ウ「場面の移り変わりに注意しながら登場人物の性格や気持ちの変化、情景などについて、叙述を基に想像して読むこと」と関連している。

孤独なために、いたずらばかりするごんぎつねは、自分のいたずらがもとで、兵十のおっかあが死んだと思い込み、自分の行動を後悔する。そして、独りぼっちの寂しさをよく分かっているごんは、自分のせいで同じ境遇になった兵十に対してひたむきに償い、自分の行為を認めてもらおうとする。人目につかないように、陰の苦労をいとわずにけなげに兵十への償いをするごん。しかし、ごんの好意と存在は、兵十にはなかなか認めてもらえず、むなしさを感じる。ごんと兵十の心が通じ合うことができたのは、悲しくも兵十に火縄銃で撃たれてしまったあとであった。民話的な舞台を背景に繰り広げられるこの物語は、通じ合いたいと切に願いながらも通じ合えないごんと兵十のすれ違いが、非常に悲しさやむなしさを生むことを教えている。

また、本教材は、「わたし」が語り手となり伝承風に書き進められている。児童は一人の読み手としてごんの視点に立ったり、兵十の視点に立ったりしながら登場人物の心情に引き込まれ、さらに美しい情景描写をはじめ、生き生きとした表現が随所に見られるため、物語に浸りやすく、読むことの楽しさを味わい、さらに読み広げていこうとする意欲をもつのに適した教材だといえる。

このような作品をしっかりと読み取るための手立てとして「リテラチャーサークル」を取り入れて行うことにした。「リテラチャーサークル」とは、役割(本来は思い出し屋、質問屋、言葉屋、段落屋、イラスト屋など)を決めて様々な観点で読むことで、物語を深く読み進めていく手法である。この手法を取り入れた役割読み(今回は質問屋、語り手屋、ごんぎつね屋、兵十屋、加助屋)をすることで、叙述に着目して読みを深め、自分の考えをまとめる力をつけることができると考える。一人で読むときもこの観点を生かして物語を深く読み進めていくことができると考える。

○児童観

(略)

○指導観

指導にあたり、「ごんぎつね」の学習に入る前に学校司書に依頼して、作者の新美南吉に関連する図書コーナーを設置したり、導入で学校司書や読み聞かせボランティアさんにかかわってもらい、作者が書いた他作品の読み聞かせを行ったりする。その中で作者の作品に興味をもたせ、学校司書や読み聞かせボランティアさんとかかわりももてるようにする。さらに、各自で新美南吉の作品を読み、心に残ったことを情報カードに書いていき、学習の中で活用できるようにしておく。新美南吉が描き出す、人と人、人と動物のふれあいからは、世の中には悲しいこともあるけど、悪いことばかりではないという温かさが伝わってくると思われる。

次に本文を読んだ感想を交流し合い、内容を確認していく。その中で自分たちが質問屋になって、みんなで話し合いたい学習内容を出し合う。

本文の読み取りについては、語り手が話の流れを説明している「語り手屋」、ごんきつねのことにについて読み取る「ごんきつね屋」、兵十のことにについて読み取る「兵十屋」、加助のことにについて読み取る「加助屋」の4つの役割を設定して行う。児童には4つの役割が本文のどこにあたるのか分かるようにワークシートを用意しておき、自分がどの部分を読んで考えていくのが分かるようにしておく。4つの役割は、1人の児童が4つ全て担当できるように毎時間交代していき、様々な角度から本文の内容を読み取っていく。途中、司書教諭に質問屋として参加してもらい、ごんきつねの気持ちについて児童と一緒に考えていくことで内容を深く読み取ることができることを期待している。そして、読み取ったことをもとに、物語が最も強く自分に語りかけてきたことなどを伝え合っていく。

本時は、「ごんきつね」で学んだ文章の読み方を生かして、新美南吉の他の作品について読み、心に残ったことを伝え合い、作者が伝えなかったことは何かを話し合う活動を行う。他の作品については、ごんきつねと似たような4つの作品（「うた時計」「のら犬」「百姓の足、坊さんの足」「久助くんの話」）が「新美南吉童話選集3」に掲載されているので、それらの作品に絞って行うこととする。そのため、前時までに「新美南吉童話選集3」を全員がひととおり読んでおき、グループごとに友だちに紹介する作品を1つ選んでおく。

最初は、自分たちが選んだ作品についてグループ内で心に残ったことを伝え合う。次に、他のグループで伝え合った内容を聞くために場所を移動してお互いの作品のことにについて伝え合う。最後は、自分のグループに戻って、ごんきつねと他の作品を読んでみて、作者が伝えなかったこと（人間の心の悲しさ）は何かを考える。

【本単元で身に付けさせたい情報活用能力】

「学び方指導体系表」にある「J つかむ（情報の取り出し）」「M 伝え合う（発表、交流）」に重点をおいて指導をする。本単元では、「ごんきつね」を始め、新美南吉の作品を読む機会を多く設定する。その中で、心に残ったことを情報カードに書き、書いたことをもとにして役割を決めて話し合ったり、本文の読み取りをリテラチャーサークルの手法を取り入れて役割を決めて話し合ったりする。そして、最後には新美南吉が伝えなかったことは何かを考えることができるようにしたい。

5 指導計画及び評価計画（全時間 本時12／12）

次	時	主な学習活動	評価			
			関意態	読む	言語	評価規準（方法）
1	1	・学校司書、読み聞かせボランティアによる新美南吉の作品の読み聞かせを聞き、感想を交流する。	○			・読み聞かせを聞き、新美南吉作品に興味をもって聞こうとしている。【行動観察】
	2	・「ごんきつね」を読んでミニリテラチャーサークルで初発の感想を語り合う。	○			・物語を読むことに興味をもち、自分なりに読み取ったことを進んで発表しようとしている。【行動観察・発言】
	3	・質問屋になって、全体で話し合った方がよい質問を考える。		○	○	・登場人物の心情の変化や場面の様子を想像しながら質問を考えている。【ノート・発言】
2	4	・一の場面を読み、ごんの境遇や性格をつかみ、いたづらをしているごんの気持ちを兵十の行動と対比させながら読む。		○	○	・ごんが人間とかわりをもたなくて、いたづらをしていることを読み取っている。【ノート・発言】
	5	・二の場面を読み、葬列が行く村の情景を読み取るとともに兵十の母の死を知って自分のいたづらが原因だと後悔するごんの気持ちを想像しながら読む。		○	○	・葬列の様子を情景描写をもとに読み取るとともにいたづらを後悔するごんの気持ちを読み取っている。【ノート・発言】
	6	・三の場面を読み、いわしやうなぎのつぐないを読み取り、兵十への思いが深まっていくごんの気持ちを想像しながら読む。		○	○	・ごんのつぐないの行動を読み取り、ごんの気持ちの変化を兵十の様子や前のいたづらを後悔する場面との関係に注意しながら読み取っている。【ノート・発言】

	7	・四の場面で司書教諭に質問屋として来てもらい、ミニレテラチャーサークルで語り合う。	○	○	・兵十と加助の会話を聞こうとして後をついていこうとしたごんの気持ちの変化を、叙述をもとに読み取っている。 【ノート・発言】	
	8	・五の場面で自分のつぐないの気持ちが兵十に伝わっていないことを不満に思うごんの気持ちを想像しながら読む。		○	○	・自分の行為が神様のしわざと言われたときのごんの気持ちの変化を叙述をもとに読み取っている。 【ノート・発言】
	9	・六の場面でごんが銃で撃たれたあとに「うなづきました」と書かれている場合と「うれしくなりました」と書かれた場合のごんと兵十の気持ちの違いについて考える。		○		・2つの書き方によってごんと兵十の気持ちがどう違ってくるのかを考えながら読み取っている。 【ノート・発言】
3	10	・「ごんぎつねと南吉」のDVDを視聴し、ごんぎつねで学習したことと新美南吉の思いと照らし合わせながら話し合う。	○			・ごんぎつねで学習したことと作者の思いと照らし合わせながら話し合っている。 【行動観察・発言】
	11	・新美南吉が書いた4つの作品で心に残ったことをまとめる。		○	○	・新美南吉が書いた4つの作品で心に残ったことをまとめている。 【ノート】
	12 本時	・新美南吉の他作品で心に残ったことを伝え合い、新美南吉が伝えたかったことは何かを考える。		○		・新美南吉の他の作品とごんぎつねを比べながら作者が伝えたかったことは何か考えている。 【ノート・発言】
事後		・新美南吉の人物像についてくわしく調べ、作品作りへの思いや地域のために活躍していたことを知る。				

6 本時の学習

(1) 本時の目標

新美南吉の他の作品について心に残ったことを伝え合い、ごんぎつねと合わせて作者が伝えたかったことは何か考えることができる。

(2) 本時に関わる情報リテラシー M-4 役割を考えて話し合う

(3) 展開

	学習活動	指導上の留意点(・)と評価(◆)
ねらいを知る	1 本時のめあてを確認する。 ごんぎつねと他の作品から新美南吉さんが伝えたかったことは何か考えよう。	・本時のめあてを声に出して読ませ、全員に確認させる。 ・学習の流れも確認し、見通しをもって活動できるようにする。 ・前時までの学習内容も確認しておく。

伝え合う①	2 新美南吉の他の作品で心に残ったことを伝え合う。(その1) ・自分の班のメンバーに伝える。 ・自分の書いたものを見直したり、付け加えたりする。	・自分と同じ班のメンバーは同じ作品について心に残ったことを書いておくようにする。 ・情報カードを用意して、事前に自分の担当した作品について心に残ったことを記入しておく。 ・心に残った文章や言葉を伝えるときには理由も言えるようにする。
伝え合う②	3 新美南吉の他の作品で心に残ったことを伝え合う。(その2) ・自分の担当した作品の心に残ったことを他の班の人に伝える。 ・他の作品の心に残ったことを聞き、メモを取る。	・1つのグループに4つの作品の児童が集まるように座席を移動して行うようにする。 ・ノートに他の作品の心に残ったことをメモさせる。
考える	4 ごんぎつねと他の作品を読んで、作者が伝えたかったことは何か考える。 ・考えたことを発表する。	・4つの作品の心に残ったことと前時で書いたごんぎつねのまとめを読みながら考えさせる。 ◆ごんぎつねと他の4つの作品を比べながら新美南吉の伝えたかったことが何か読み取っている。
ふりかえる	5 ふり返りを書く。	・心に残ったことを伝え合って、新美南吉の伝えたかったことが何か考えることができたかを振り返らせる。

(3) 評価

十分満足とされる児童の姿	おおむね満足とされる児童の姿	支援を要する児童への手立て
ごんぎつねと他の作品を比べながら新美南吉が伝えたかったことは何か的確に読み取っている。	ごんぎつねと他の作品を比べながら新美南吉が伝えたかったことは何か読み取っている。	・ごんぎつねと他の作品のキーワードになる言葉が書いてあるワークシートを渡し、共通していることは何かをいっしょに考える。

(4) 研究協議の視点

児童が、ごんぎつねの内容と関連のある作品を使って心に残ったことを伝え合い、新美南吉の伝えたかったことは何かを考えることができるために、本時までに司書教諭、学校司書が新美南吉コーナーを設置したり、読み聞かせや話し合いに加わったりして関わったこと、そのやり方は効果があったか。

7 研究協議の概要

参加者	校内 9名、校外 15名 計 24名
授業及び研究協議の概要	(授業の概要) 本時では、班に分かれて新美南吉の他の作品について心に残ったことを「役割を考えて話し合う」活動を行い、作者が伝えたかったことは何か考え発表した。 (研究協議の概要) ・「作品について心に残ったことを伝え合い、ごんぎつねと合わせて作者が伝えたかったことは何かを考えることができる。」という本時の目標に迫る児童の姿が見られたので、それまでに司書教諭や学校司書が関連図書を紹介したり話し合いの授業に入ったりしたことに効果があったと考えられる。 ・新美南吉の作品集が、児童がすぐ手に取れるように豊富に準備されていたのがよかった。